

第 1 回 中央大学環境問題研究会（第 19 号）

私たち環境問題研究会は、現在地球的規模で拡大している環境問題を多角的に学生の視点から研究する学生有志団体です。昨今、様々な局面で社会的責任が問われており、社会の一員として学生もその例外ではありません。環境に先進的に取り組む地域づくりのため日々活動しています。2006 年 1 月「第 5 回東京都グリーンコンシューマー奨励賞」活動部門を受賞しました。

■ I 学園祭におけるゴミ対策運動

「学生の文化活動発露の場」とされる学園祭ですが、毎年排出されるごみの量はすざましいものです。「学生自治をうたうのなら、自分たちの出すゴミにも学生は責任を持つべきではないか」という問題意識から、私たちは学園祭におけるゴミ対策運動に乗り出しました。以前の調査から、模擬店の使い捨て容器が学園祭期間中に排出される主要なゴミになっていることが判明しています。そこで、使い捨て容器に変わりリサイクル可能な容器を導入することによって、処理される廃棄物の減量を目指しました。平成 17 年度の企画『ペリペリはがしてリサイクルキャンペーン』では、12 の出展団体が使用しました。学園祭期間中は容器回収のため、カートを押してひたすら学内を駆け回っていました。

また、学園祭翌日に清掃業者によって行われる一斉清掃にまだ真っ暗な朝 4 時から参加し、溢れかえるゴミを集め一つひとつ手で分別しました。他人の祭りの後始末を黙々と行う業者の人たちには全く頭の下がる思いで、学生にもっとこの現状を知らせる必要があると痛感しました。さらなる研究を行い、抜本的対策を行うことを各方面へと働きかけていきたいです。

■ II 環境シンポジウムの開催

私たちは定期的にゼミを開催し、環境問題を多角的に研究しています。平成 17 年 11 月 22 日、日々の研究成果を発表する場として、また社会に対しての環境意識向上の働きかけの場として、中央大学多摩キャンパスで『野口健環境シンポジウム 富士山から日本を変える～いま私たちにできること～』を開催しました。シンポジウムの前半では、私たちの研究論文に基づいたプレゼンテーションをしていただきました。そして後半では、富士山やエベレストでの清掃登山活動の経験から、日本の環境市民活動の在り方について野口さんに講演をしていただきました。開催直前は終電帰りが続くなど準備は大変でしたが、大学生を中心に 200 名を超える参加者があり、環境問題と市民活動への関心が社会的に高まっていることを実感しました。中大の環境意識の向上に貢献できたと思います。また平成 17 年夏、野口健さんの呼びかけによる富士山清掃活動にも参加しました(関東周辺から約 300 人が参加)。富士山裾野に広がる樹海は不法投棄がひどく、空き缶・廃タイヤから医療廃棄物、果てはアスベストまで、ありとあらゆるゴミが集積しています。このゴミの山を目にすると理屈抜きで「何とかしなければ」と感じるようで、しだいに参加者がみな一心にゴミを拾うようになったのには驚かされました。環境問題を現場で考えることの重要性を改めて知りました。

その他、東京都主催「家電で省エネ新生活キャンペーン」や、省エネ東京連絡会主催「省エネ家電で地球温暖化防止!」事業等にも協力しました。

今後も地球規模の問題に目を向けながら”think globally, act locally”をモットーに「環境に配慮した地域づくり」に向けて、行政や市民団体、大学との共同に取り組んでいきたいと考えています。

中央大学法学部 2年 原 英智

中央大学環境問題研究会 URL http://www.geocities.jp/kankyoken_chuo/